

新・神戸文化ホール整備基本計画（案）の概要

1. 新・神戸文化ホールの整備方針

三宮周辺地区における再整備の中で、新・神戸文化ホールを整備することにより、芸術文化の発信・交流の拠点として、まちの魅力や賑わいを最大限創出していきます。

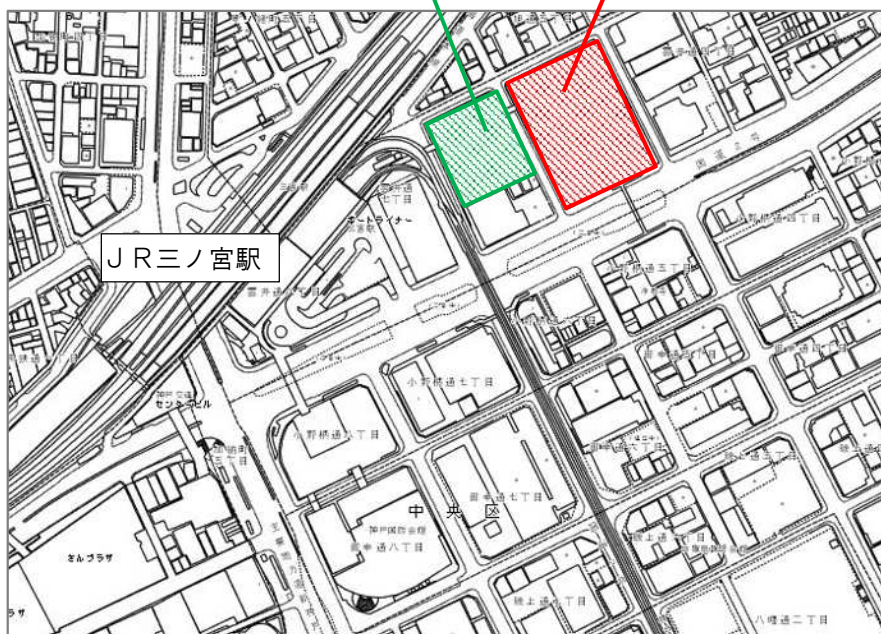
(施設配置図)

雲井通5・6丁目地区再整備
(Ⅱ期：雲井通6丁目北地区)

- ・中ホール：700席程度
- ・神戸市室内管弦楽団や神戸市混声合唱団がレジデント

雲井通5・6丁目地区再整備
(Ⅰ期：雲井通5丁目地区)

- ・大ホール：1,800席程度
- ・身近な発表の場や集会など区民ホール利用にも対応できる多目的スペース



【整備方針の視点】

- 新たな三宮周辺地区のまちづくりにむけた視点
- ホール間の連携の視点
- 複合施設としての視点
- 基幹施設としての視点
- ユニバーサルデザインの視点
- 文化面における地域交流拠点としての視点
- 振動対策・遮音性能・静音性能など
- 将来の改修に向けた配慮

輝ける神戸の未来に向けた
「新たな価値を創り出す芸術文化創造拠点」

2. 事業の考え方

【目指す機能】

- ① 市民の誇りとなる、神戸らしい芸術文化の発信
 - ② 市民主体の芸術文化活動の促進、更なる高度化の支援
 - ③ 芸術文化を担う創造的人材の育成
 - ④ 多様な人材が交流し、まちのにぎわいを生み出す空間と経済波及効果の創出
 - ⑤ 神戸の個性を発揮することによる「選ばれるまち」の実現
 - ⑥ 芸術文化の普及啓発拠点として誰もが芸術文化に触れる機会を提供
- を踏まえて、①創造・発信、②支援、③育成、④交流・にぎわい創出、⑤情報発信・調査研究、⑥普及・啓発を行う。

3. 施設計画

① 大ホール

- ・客席数 1,800 席程度

神戸らしい芸術文化の創造と発信を通じて神戸の魅力を高める機能として整備し、現・文化ホール大ホールの機能を備えます。

大ホールは、現・文化ホール大ホールが担ってきた機能を基本的に継承するとともに、進化する様々な技術にも対応し、これからのホールとして求められる役割を果たすことを目指します。

また、身近な発表の場や集会など区民ホール利用にも対応できる多目的スペースを併設します。

② 中ホール

- ・客席数 700 席程度

現・文化ホール中ホールの担ってきた機能を基本的に継承し、今後の新しいニーズにも対応できるものとします。

ダンス、演劇、伝統芸能、音楽などの様々な発表の場として幅広いニーズにフレキシブルに対応できるホールとなるよう計画します。また、神戸市室内管弦楽団や神戸市混声合唱団のレジデント機能も有し、大ホールとの連携を行うための動線などを確保します。

席数に関しては、ゆったりと鑑賞ができるよう、座席のゆとりやステージまでの視距離を考え観客の満足度を高める工夫をした上で、現在の利用状況を踏まえて700 席程度とします。

中ホールに求める機能の詳細については、雲井通5・6丁目再整備計画（Ⅱ期）と合わせて考える必要があり、引き続き検討を行うこととします。

4. 管理運営の考え方

劇場、音楽堂等施設として高い専門性を持つ施設を、適切にかつ効果的に管理運営を行っていくため指定管理者制度を導入し、新・神戸文化ホールの整備方針や事業展開を実現できるような管理運営を行います。

5. 整備スケジュール（予定）

各ホールの整備時期については、以下の事業に準じて進めていきます。

機能	関連事業名	完成時期（予定）
大ホール (多目的スペース含む)	雲井通5・6丁目地区再整備事業 (Ⅰ期：雲井通5丁目地区)	2026年度以降
中ホール	雲井通5・6丁目地区再整備事業 (Ⅱ期：雲井通6丁目北地区)	2030年度以降

6. 概算事業費・延床面積

大ホール

事業費：約350億円 延床面積：約25,000㎡

※中ホールについては、雲井通5・6丁目地区再整備事業（Ⅱ期）の進捗により算出し、公表していきます。

7. 今後の検討課題

- 現・文化ホールからの継続性への考慮
- 全計画終了までの運用及び組織体制
- 事業内容・管理運営の検討
- 整備推進体制
- 先行したソフト事業の実施
- 新型コロナウイルス感染症対策について
- 現・文化ホールの継続使用と大倉山地区について